

奔潮

「大阪の成長戦略」について ～大阪は“日本の成長エンジン”～

大阪府政策企画部企画室
福田悦子

はじめに

これまで、日本の成長は、東京・大阪などの大都市圏が支えてきました。しかし、都市への集中を是正するための大都市圏法制などの規制や制度が時代遅れとなり、大都市圏の力が削がれた結果、わが国は長期的な低迷を続けています。このままでは、世界の中・アジアの中での都市間競争に打ち勝つことはできません。本格的な人口減少・少子高齢社会に突入した今、大都市の成長を図ることこそ、日本再生の切り札といえます。

大阪府では、大阪・関西がわが国を力強くけん引する“成長エンジン”として再生することをめざし、「大阪の成長戦略」を策定しました。この戦略は、市町村や民間企業、国、NPOなどの様々な主体が、将来の方向性を共有するための“提言書”でもあり、オール大阪で取り組むことが重要であると考えています。

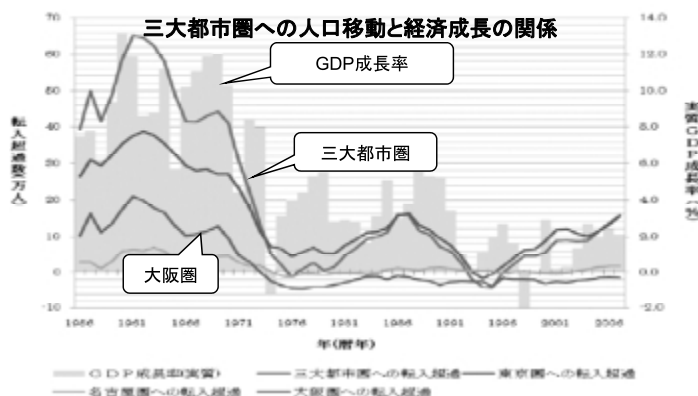
大阪・関西の現状

大阪・関西は、長期にわたる人口流出、法人税収の落ち込み、高い失業率など、多くの課題を抱えています。

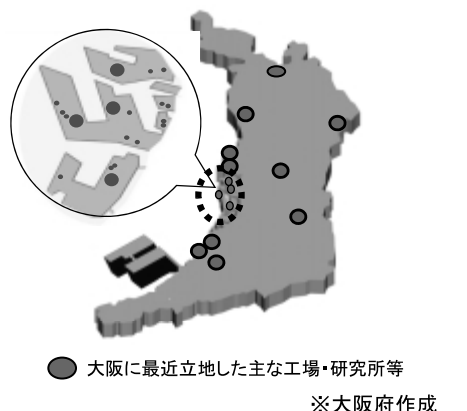
一方で、先進国一国に匹敵するほどの人口・経済規模を持つ大都市であるとともに、関西国際空港や阪神港といった世界標準のインフラ、バイエリアを中心とした環境・新エネルギー産業の企業集積、ものづくり中小企業の集積と高い技術力、高水準の大学・研究機関の立地など、多くの“強み”や“優位性”を有しています。

大阪・関西の成長に向けては、成長を阻害する要因に向き合い、これを克服するだけでなく、“強み”や“優位性”といったプラス要因を一層磨き、現実の成長に結びつけていかなければなりません。

◆ 日本の経済成長の低下と大阪圏への人口流入減少



◆ バイエリアを中心に進む企業集積



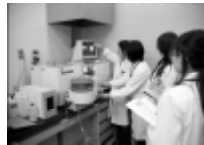
※縄田康光(2008)『戦後日本の人口移動と経済成長』経済のプリズム No.54, pp.20-37

◆ めざす将来像

ハイエンド都市 (価値創造都市)

大阪・関西の強みをさらに磨き、
高い付加価値を創り出す都市

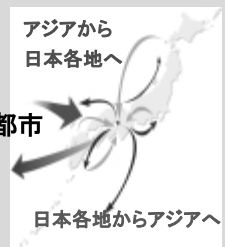
- ◆ 先端技術産業の集積
- ◆ 高度専門人材の育成・集積・交流
- ◆ 国際標準の競争環境の整備



中継都市

アジアと日本各地を結び、
集積・交流・分配機能を発揮する都市

- ◆ アジアと日本各地をつなぐ玄関口
「関西国際空港」「阪神港」
- ◆ ヒト・モノ・カネの集積・交流、
各地への分配



◆ 成長目標(2020年を目途)

- ◆ 実質成長率 年平均2%以上(10年間で経済規模を2割拡大)
- ◆ 雇用創出 年平均1万人以上(10年間で10万人以上の雇用を創出)
- ◆ 訪日外国人 年間650万人が大阪に(現在の約4倍)
- 貨物取扱量 関空60万トン増(現在の約2倍)
- 阪神港190万TEU増(現在の約1.5倍)



めざすべき方向性と成長目標

要因分析の結果、成長を促すポイントとして、次の3点が浮き彫りになりました。

- ・ 人材・技術の競争力を高め、高い付加価値・技術革新を生み出す。
- ・ 人・企業を集め、対内投資を呼び込む。
- ・ アジアの活力を取り込み、消費・雇用につなげる。

この視点に基づき、めざすべき将来像(「ハイエンド都市」「中継都市」と、今後10年を目途とした具体的な成長目標(「実質成長率年平均2%以上」等)を掲げています。将来像の実現によって、大阪・関西はもとより、「日本の成長エンジン」として全国・地方へも大きな経済波及効果を生み出すことができると考えています。

成長のための5つの源泉

成長目標を実現するため、「集客力」「人材力」「産業・技術力」「物流・人流インフラ」「都市の再生」

の5分野を強化します。また、“新しい公共”“ソーシャルキャピタル”“ソーシャルビジネス”といった新しい考え方や、失敗しても再挑戦できるセーフティネットなど、安心を守り、競争を促す環境を整え、取組を支えます。

(1) 内外の集客力強化

エンターテインメント施設の立地促進、関空の観光ハブ化・ポータル化の推進 等

(2) 人材力強化・活躍の場づくり

英語教育などハイエンド人材の育成、外国人高度専門人材等の受入拡大、地域の強みを活かす労働市場の構築、成長を支えるセーフティネットの整備、女性・高齢者などの活用 等

(3) 強みを活かす産業・技術の強化

総合特区による国際的な競争拠点の形成、世界市場の積極的な開拓、ハイエンドなものづくりに向けた研究開発 等

(4) アジア活力の取り込み強化・物流人流インフラの活用

関空・阪神港の国際ハブ化、高速道路や鉄道の

